

## 令和7年度 奈良県知事賞

### 119 の無駄遣い

奈良市立平城中学校 3年 大久保 貴織

八月のある日、救急車のサイレンが聞こえてきたので「熱中症かな」と私がボソッと呟いたとき、父から「そうかもしれない。でも大した事なくても救急車呼ぶ人いるからな。」と意味ありげな返事をされました。私は父にどういう事が尋ねました。父は長年病院で受け付け業務に携わっています。救急搬送されてきた多くの患者さんは担架に乗せられたまま救急隊員によって診察場まで運ばれて行くそうです。しかしながら、救急車から軽快な足取りで自力で診察場まで歩く患者さんも少なくないそうです。その後診察が終了し、帰っていく姿を見ると救急車の必要性に疑問を感じるということでした。

そんなやりとりがきっかけで私は救急搬送の実態を調べてみました。すると救急車の運用は行政サービスの一貫であり原則無料で利用でき、それらは税金により賄われているということを知りました。ちなみに一回の救急搬送にかかる費用としては諸経費込みでおよそ四万五千円かかるそうです。一日あたりの救急搬送を一回四万五千円として全国単位で考えた場合、莫大な費用がかかっていることに気付かされました。

また奈良県においての救急搬送要請は年々増加傾向にあります。その背景として軽症者による搬送の割合が半分を占めている事もわかりました。つまり、本来救急搬送するには及ばなかった事例にも救急車が頻繁に利用されている事がわかります。これは税金の無駄遣いに他なりません。税金の無駄遣いと聞くと政治家に対する批判の言葉だと思っていました。しかし本当にそれだけでしょうか。

もちろん怪我や事故、体調不良など急を要する事態はいつ自分の身に起こるかわかりません。そんな時は119に電話をすれば安心というのもよくわかります。しかし、本当にそれが急を要する状態なのか、自家用車やタクシー、公共交通機関では病院に向かえないのかを冷静に判断する必要があると思いました。

私はこの作文を書くにあたり、救急搬送の視点から税金について考える事ができました。きっかけは救急車のサイレンでした。おそらく普段生活している中で他にも様々な税金が私の身の回りには深く関係している事と思います。具体的にそれがどんな内容なのか、今回の事をきっかけに無関心にならず勉強していきたいと思いました。